

2022年1月27日

2021年度聖路加国際大学大学院
看護学研究科課題研究

周産期うつ病に対する鉄補給の予防・治療効果
：文献レビュー

The Effectiveness of Iron Supplementation in
Preventing or Reversing Iron Deficiency for Perinatal
Depression in Mothers : A Literature Review

20MW005

浦 マリア

要旨

I. 研究目的

周産期うつ病は、周産期合併症のなかでも有病率が高く、発症リスクの高い妊産婦に対するケアが重要である。本研究の目的は、妊娠中および産後の母親の鉄補給が周産期うつ病に及ぼす効果について、系統的レビューを実施することである。

II. 方法

網羅的に文献検索するために、医学中央雑誌Web(Ver.5)、The Cochrane Library、PubMed、CINAHL Plus With full text、Embaseにて文献検索を行い、採用文献のデータの抽出とバイアスリスクの評価を行った。

III. 結果

妊産婦に対する鉄補給を行なったRCTのシステマティックレビュー(SR)、介入研究を組み入れ基準とした。採用文献は5件(SR1件、RCT3件、1群の介入研究1件)であり、すべて国外の研究であった。エビデンスの質として、SRは、産後うつ病の予防を目的とした栄養補助食品の有効性を検討していたが、予防的な鉄補給の試験は組み入れ基準に合致するRCTはないという結果であった。3件のRCTでは、すべての試験で報告バイアスに一部懸念があり、フォローアップ期間中の脱落によりバイアスが危惧される試験があったため、全体のバイアスリスクの評価は中程度であると判断した。研究の対象は、1年以内に妊娠予定の女性、鉄欠乏性貧血の妊産婦、うつ症状がある産婦と様々で、介入内容は、鉄または鉄と微量栄養素を組み合わせたものがあり、介入方法や期間は研究間で異なっていた。RCT3件のうち2件は、鉄欠乏性貧血の産婦、うつ症状がある産婦を対象としており、鉄治療群の方が、コントロール群と比べてEPDSの得点が有意に低かった。しかし、妊娠予定の女性への予防投与については臨床的に意味のある差ではなかった。

IV. 結論

組み入れられたRCT2件では、鉄治療群の方が、コントロール群に比べてEPDSの得点が有意に低いという結果であったが、中程度のバイアスがあり、対象および介入にはばらつきがみられた。鉄補給がうつの改善に有効である可能性はあるが、予防的な介入は効果量が少ないことが示唆された。今後、周産期うつ病に対する鉄補給の予防・治療効果の観点から、さらなるエビデンスが必要である。